

まち博

まちば生きた博物館

会報第 115 号

発行日 令和 7 年 2 月 1 日
編集発行 いたばし まち博友の会
事務局 〒174-0064
板橋区中台 3-27 H-1602

江口方

TEL・FAX 03-3559-0778

<http://itabashimachihaku.web.fc2.com>

題字 栗原光江
カット 内田勝子



徳丸北野神社の
獅子舞

謹賀新年

令和七年乙巳

いたばし まち博友の会

新年挨拶

あけましておめでとうございます。昨年は年初から能登半島地震、航空機事故等多難な年を予想させる始まりでした。その後能登では洪水が被害に追い打ちをかけ、未だに復興は程遠い状況です。夏から秋にかけての暑さも尋常なものでは無く。雨の降り方も能登を始め各地の水害を招いてしまいました。今年も年初より北方の雪国では大雪による災害が報道されていて、夏はどうなるのか余り予想をしたくありません。一方で何処かの国ではそれを認めない人物が大統領になり、二酸化炭素の排出の制限には全く耳を貸さない政策を進めようとしています。その結果は明らかでしょう。

まち博友の会の一年を振り返ると、一年に続き予定した行事を全て実施することが出来ました。また会員数は、若干の増加しないしは現状維持が続けられています。これでコロナ禍以前の状況に戻ることができたと考えています。行事の中では「史跡めぐり」は毎回多くの参加者数を記録して会員外の参加者もあり、会員数の増加にも寄与しています。ただ反省点もあります。新

入会員の増加をめざしてまなぼーと成増のサークル公開教室の一部として古文書講座を開きました。しかし以前に実施した「区民公開講座」ほどの参加者は集まらず、新入会員も僅かでした。実施に多くの手間を要した割には結果は残念なものでした。

こんな状況のなか本会は1年半後の2027年7月に創立40年を迎えます。まずこの1年は先輩方から引き継ぎこれまでの活動全般を振り返り、更に今後の会の進め方を検討することにし、主に来年をまとめた作業を行う年と考えています。具体的には過去の活動を総まとめして記録に残し、今後の活動の指針ともなるようなモノを作りたいと思っています。多くの手間が必要になる作業です、ご協力をお願いします。また作業量に加え資金的な面を考慮すると、一部は電子的な手法をとるほかないと考えています。右の状況を踏まえて新年を始め



るにあたり、役員一同は気持ちを新たに活動を進めます。会員各位のご協力をお願いし、年頭の挨拶に代えさせていただきます。

会長 江口 清

初詣・新年会報告

広報部

令和7年1月16日(木)、徳丸北野神社に21名の会員が集合した。神社の由緒等を記した古書『天神宮紀』によれば、「正暦(990~995)年間、この地に疫病が流行したときに梅の古木に祈って靈験があったので、長徳元(995)年、山城の国北野の天満宮より分霊した。この時田夫の業を演じて神慮を安んじ奉ったのが、今、国指定重要無形文化財「田阿曾美(田遊び)」の起源とされる」と、区教育委員会発行の『いたばしの神社』に記されている。今年で¹⁰³⁰年という。また今号からの表紙カットには区無形民俗文化財「徳丸北野神社の獅子舞」の躍動感ある画が内田



会員の手で書かれている。拜殿前で記念撮影の後、11時より昇殿、まち博の発展と安寧、活動へのご祈禱をしていただき、会長の玉串奉奠と全員で二礼二拍手一札のあと福鈴のお清めがあった。

新年会は四葉集会所へ移動し参加者は20名、栗原副会長の司会で江口会長の挨拶のあと、北野神社から頂いたお神酒で阿高会員の乾杯の音頭で宴が始まる。

玉越会員が過去の集合写真を整理したアルバムを持参され回覧する。栗原副会長の作った板橋区に関する知識満載のクイズ(結構むずかしかった)で、会員から寄付の景品もあり、お神酒が入っているとは思えない素早い回答はさすがまち博会員と思う。

余興として「酔いがさめなければ良いのですが・・・」と佐藤会員が詩吟石川丈山作『富士山』を、池田会員が謡曲『高砂』を、三浦会員が『あゝ人生に涙あり』の歌をそれぞれ朗々と詠って披露していただき正月に相応しく盛りあがる。

例に依り今年の抱負を一人づつ述べるが、まち博愛にあふれた内容が多い。

令和5年で「史跡めぐり」が170回を数えたとか、来るべき40周年に向け、今後とも団結して精進しましょうと心強い意見も出る。

今回は笹尾会員が元会員だった奥様同伴で参加いただき、また小田急線の不通のなか経堂から渋谷までバスを乗り継いで参加いただいた板垣会員にも感謝です。

最後に目黒名誉会長の中締めで無事令和7年の新年会が幕を閉じた。

ぶらりまち博散歩(八十四)

板橋探訪

平澤 英昭

その一 板橋の一等三角点

三角点とは

山に登る者にとって三角点は懐かしい。ちよつとした山なら多くの山頂に三角点がある。三角点と言っても三角ではなく四角い御影石の標石で、経緯度と高さの基準となる三角測量の測定点である。標石上面の十字線の中央の交点の位置がその基準点である。日本の地形図は、昔陸軍の陸地測量部が作り、軍隊がなくなつた太平洋戦争後は、国土交通省外局の国土地理院が作っている。

三角点には一等から四等まである。国会議事堂の近く、尾崎記念館の庭の「日本水準原点」や港区狸穴(まみあな)のロシア大使館の裏の「日本経緯度原点」を基準にして、一等三角点を結んだ大きな三角形で日本中をカバーしている。これを基本にして、さらに二等三角点、三等三角点と順次小さな三角形を作りながら測量をする。当然ながら一等三角点の場所は見晴らしの利く高山が多く、その数は全国で⁹⁷³ヶ所ある。見慣れた三角点のほとんどは花崗岩でできた三等三角点で全国に3万点以上ある。

「板橋の一等三角点」

意外なことに、この板橋に貴重な一等三角点があるのをご存じだろうか。高所でもなく眺望も良くないこの板橋に、である。その場所は板橋区徳丸3-14-5で、名称は「徳丸三角点」である。



1万分の1の地形図によれば標高34.47m。東武練馬駅の近く、イオンの先、東武練馬中央病院の角を西側に200mくらい入った所にある。5階建ての郵政団地の庭先と言ったらよいだろうか。道をはさんで北側に東電の変電所がある。雑草の中で4ケの丸石に囲まれて、一等三角点の標石がでんと鎮座してはいるものの、どう見ても一等の貫禄はない。

ここに一等三角点が設置された頃はおそらく見渡す限りの畑で、この広野を代表する位置だったのだらう。今はマンションに囲まれ

てしまったが、国内測量の基準として一等三角点に設定してしまった以上簡単に変更するわけにはいかないのだらうと思われる。

因みに島嶼を除く都内の一等三角点は、最高峰の雲取山（奥多摩町）を始め、徳丸（板橋区）、東京大正（港区麻布台）、上沼部（世田谷区玉川田園調布）、三鷹（三鷹市大沢東京天文台内）、蓮光寺（多摩市蓮光寺）、高根（西多摩郡瑞穂町高根）と僅かに7ヶ所、23区内ではたったの3ヶ所である。

その二 板橋の百段階段

東京で「百段階段」と言えば目黒雅叙園の百段階段であろう。東京都指定の有形文化財となっている。これは目黒川の左岸、東斜面に建つ昭和の竜宮城とも呼ばれる4棟の木造建屋を、一直線に99段の長い木造階段で結んでいる。これらの建物は、いささか悪趣味とも言えそうなきらびやかな造りの内装で名高い。

「板橋の百段階段」は屋外のコンクリート造である。赤羽から白子川の手前まで続く武蔵野台地の北側、全長8kmもある赤塚崖線の西端近くにある。高度差は約25m。赤塚水川神社から北に200mも歩くと、この階段の上に出る。余り知名度は高くないようだが、ここから北側の眺望は素晴らしい。

東は筑波山から、北は日光・赤城・榛名へと続く北関東の山々、更に西は秩父の連山までが一望である。眼下は板橋最北端、荒川沖積平野の街並みから、笹目橋や幸魂大橋がすぐ近くに見え、その間を首都高速5号池袋線がうねうねと伸びている。幸いに視界を遮るような高層ビルは見当たらない。



この百段階段は、途中に4つの踊り場を挟む118段の段数で名前に偽りは無い。まだ露頭だった頃のこの崖には迫力があつたが、崖下にマンションが建つてからは迫力が落ちてしまった。しかしこの眺望は十分その名に恥じない。暫らく眺望を楽しんでいたら何人かの人が通つて行った。長い階段だが、生活道路になっているのだろうか。

文化財ふれあいウィーク報告

大谷 克子

令和6年度の文化財ふれあいウィークに
まち博は松月院松宝閣と旧粕谷家住宅ガイ
ドを11月2～4日、9～10日に担当した。
双方の来館者は累計で松月院¹³⁸名、旧粕谷
家⁹²³名だった。

筆者の担当した11月3日は旧粕谷家が
「いたばしウオーキング大会」のチェックポイン
トになり、旧粕谷家土間の敷居から入った人
だけでも700名を超えた。ガイドの仕事も資料
を渡して大黒柱とシシ窓の説明ぐらいしかで
きないのが大半だったが、それでも何名かは、
「旧粕谷家が通年開いています」と教えると
「今度ゆつくり来ます」と言ってくれる。他の
日は概ねゆつくり案内出来た。

同日、旧粕谷家住宅で「東京都文化財ウ
ィーク2024 参加企画事業、板橋区教育委
員会主催」で今年の3月に東京都無形民俗
文化財指定となった萩原由郎社中の「相模
流里神楽」が、午前は「天孫降臨」、午後は
「大黒天の宝さずけ」を「ツギノマ」を舞台に
して演じられた。午後の部の終わりは「餅ま
き」ならぬ「菓子まき」で盛り上がり子供たち
が喜んでいた。

去る10月19日に板橋区文化財講座（民
俗芸能）講演「江戸里神楽の歴史と継承
（江戸東京の里神楽）―相模流里神楽・萩

原由郎社中 東京都無形民俗文化財指定
記念―と題した國學院大學の茂木栄先生の
講座がグリーンカレッジホールで催され受講
したことが勉強になった。

実際の演舞は想像以上にあでやかで「里神
楽」の名前から鄙びた舞を思い描いていたが、
衣装、神楽面とも優雅な感じで、ここに掲載
する写真が白黒なのを恨めしく思う。



上 里神楽
使用の神楽面
左「シシ窓」より差込む
秋の日と「室礼」



また「すべての実りに感謝」と名付けられた
秋の味覚をふんだんに盛った室礼（しつらい）が
「ヒロマ」に展示される。板橋区と友好交流
都市の金沢市からの観光案内のテーブルも
出、駐車場にはキッチンカーが2台も並び賑
やかな一日だった。

松月院の松宝閣の案内は、今年は高島秋帆
の調練図の修復が終わり展示があった。

高島平の地名が高島秋帆由来と知らない見
学者が盛り上がっていたし、高島秋帆の岡部幽
閉に関して、渋沢栄一と接点があったかも？は、
皆知つていて、大河ドラマの威力を感じる。

まち博の史料研究会の勉強で『徳丸が原の
砲術訓練』や『弘化三年七月 徳丸原百姓大
筒稽古場立入につき詫書』など砲術訓練の時
の古文書類を勉強したことが大いに役立つ。

朱印状の所は、殆どの方が熱心に見聞きし
てくれ、大堂の鐘の写真では、「近くの郷土資
料館に実物があります」と教えると、「今から
行ってみます」との言葉が嬉しかった。

旧粕谷家住宅でも同じく史料研究会での勉
強が役立ち、毎年実施している郷土史勉強会
の区文化財係先生方の「文化財ウィーク事前
勉強会」の蓄積、資料が心強くもあるが、いざ
その場に臨んで何分の一も説明できないもどか
しさ未熟さも感じてしまう。これは自分への勉
強とと思うしか無いだろう。

そして今回も旧粕谷家住宅常駐のシルバー
人材センターの方々には大変お世話になり深
く感謝です。一緒にガイドした会員からも自
分の知らない説明箇所を教えてもらえるのも有
意義で、今回は旧粕谷家住宅の柱の「根継ぎ」
を教えてもらい大工さんの仕事に感激した。

史跡めぐり

「小松屋横町(丁)道」と

板橋宿の名所をめぐる

佐藤 信子

晩秋にしては暖かな11月24日、東上線大山駅南口改札前に28名集合。

大山と言えばアーケード。駅と川越街道を結ぶ全長560mの商店街、これを造った理由の一つに池袋のサンシャイン60に客足を取られない為だったと聞く。昭和53年に完成。

大山の由来は「大山詣」の参詣道からなど諸説あるが、旧川越街道と千川上水と交差する地にあり昔から物産を運ぶ重要な道筋、東武東上線も令和6年の5月で110周年を迎え沿線住民の暮らしに沿って走り続けている。

ハッピーロード再開発現況を「視察」するとうう、ワクワク感で進むと「うわ!!」アーケードが大胆に切り取られ青空が現われた。都補助26号道路の整備とタワーマンション4棟が建設中。あまりの変わりようにびっくり。やはり昔ながらの人情味溢れる商店街は傘要らずの買い物が嬉しい。

① 大山橋跡

千川上水が大山の旧川越街道を横切る所に架けられた石の欄干の橋だったが暗渠になるので取り壊された。左手地面のデザインマンホールが目に入る。中央10cmほどの円に「千川上水」の四文字がデフォルメされ、廻りに桜・銀

杏・メダカの図柄が素敵で皆、撫でたり触ったり。

最近ではデザインマンホールにアニメのキャラクターを描いたりして人気があるという。



「小松屋横町(丁)道」は初めて聞く道。旧中山道と旧川越街道を結ぶ江戸時代からの古道。旧中山道の板橋町役場跡入口の真向かいから始まり、現ハッピーロードの大谷道入口まで通じ中山道の分岐点に「小松屋」という江戸時代からの酒場があったところから名付けられた。

ハッピーロードの右手角の石川ビルから入っていく、この石川ビルはその昔、日用雑貨商だった。その子孫かしらと思いつつ住宅街を進む。

② 旧お茶の水女子大寮跡

現在は「ジオ板橋大山」マンションが建設中。

③ 旧養育院分院跡

大正3年開院の養育院分院は結核患者と不治の病人を隔離する目的で設けられる。現在東上線の西側にある旧都立板橋看護専門学校と宿舍があった敷地で、この跡地には民間高齢者介護施設「クローバーのさと」が建つ。

「板橋に競馬場があったこと、知ってる?」と何人かの友人に尋ねたら全員「知らない!!」

「うそ?」との答え、そういう私も信じられなかった。明治40年今の豊島病院辺りに「板橋競馬場」を建設、日清・日露の戦役を通して軍馬の増産が急務であり勝馬投票券による収益増であったが、たった一年間のみ3回の競馬開催だけで幕を閉じ、その後目黒競馬場に併合し廃止されてしまった。柵で囲われた雑草の小丘に競馬場の面影を探しながら東上線を渡る時、ふと東上線の「東上は何だったっけ?」と思いつ、確か東京と上州を結ぶ意味だった。

④ 旧養育院

養育院は身寄りのない子や老人を養う救貧施設、明治5年創設、事業開始の地は本郷加賀邸の空(あき)長屋から上野・神田他を転々とし関東大震災のあと現在地に移転、資金は江戸幕府の松平定信による七分積金が、明治政府に引き継がれたものである。

養育院の歴史は渋沢栄一抜きには語れない。91歳で亡くなるまで50余年にわたって院長を務めた。将来を見据えた社会福祉・医療事業に大きな足跡を残す、都健康長寿医療センターの前身に当たる。養育院中央記念広場の片隅に「ヒポクラテスの木」(プラタナス)が植えられている。医聖ヒポクラテスがこの木の下で学生に医の道を説いたと言いつづ伝えられる木で「病院のシンボル」の木である。

⑤ 旧東京市養育院の渋沢栄一像

渋沢翁の功績を顕彰する青銅製の像は、か

なり大きく立派、大正14年の落成式から時代に翻弄され5回も引越し、やっと現在地におさまった。戦時の金属供出時はコンクリート像になったが辛うじてこの銅像は残り修復され、平成26年3月に区登録有形文化財になる。令和6年7月3日から新一万円札の「顔」になった渋沢翁とはもつと／＼仲良くなりたいたいのである。



像の左奥には寛永寺より移設の大きな石灯籠が2基あり、暫し間近で鑑賞できた。

⑥ 板橋第一小学校

区内で最初の公立小学校。明治7年開校、徳丸にある紅梅小も同年に創立され共に150周年を迎えた。

⑦ 松葉保育園

緑色の「お屋根」がかわいい園。初代園長浦井まつは「板橋の歴史に残る50人」のひとり。池田会員が通園していて園長先生と毎日会えたという羨ましいエピソードを聞く。

⑧ 「板橋病院」跡

豊島病院の前身、明治32年現香川内科小児科医院付近に開院。豊島病院は大正7年から地域の中核病院として救急医療等を担う。

⑨ 水川町水川神社

創建元久3(1206)年頃、江戸時代には板橋宿の鎮守で広く信仰を集める。境内には富士塚があり富士山登拝講の歴史や民間信仰を知る上で貴重な史跡。

⑩ 日曜寺(光明山愛染院日曜寺)

真言宗・本尊愛染明王 天に向け弓を引く明王で是非拜見したいものである。当日は法事で山門前での見学、橋の跡があり、かつて江戸から大正時代に使用され、昭和10年頃まで水が流れていた「中用水」と呼ばれる石神井川から分かれた用水路があつたが現在はほとんどが暗渠となっている。

愛染が藍染に通じることから染物組合の人たちが奉納した手水鉢や石碑・玉垣がある。

日曜寺の日曜は日が輝くつまり太陽の寺で太陽つまり大日如来と同体の愛染明王を本尊とする。松平定信の揮毫した扁額が山門にある。

⑪ 智清寺(龍光山恵照院智清寺)

浄土宗・本尊阿弥陀如来 山門前にある正徳4(1174)年の石橋は、「中用水」に架けられたもの、天正19年家康により寺領5石をもらう御朱印寺。

⑫ 縁切榎

文久元(1861)年和宮下向の折の話で有名。小さな境内に当世を物語るように絵馬(千円)の自動販売機が設置され、その絵馬に保護シ

ールがついてくる。「個人情報」を守る配慮だとか。願い事を書いたらシールを張るのである。個人情報もここまで来たかと、あきれてしまう。大山の再開発を通して板橋競馬場跡地付近の変遷の深さが身近に感じられる史跡めぐりであった。



日曜寺 山門前 記念写真

参加者名(敬称略)

阿高 飯塚 池田 板垣 内田 江口 大河
大瀧 大谷 榎引 栗原(弘) 後藤 小出
佐藤 副島 高橋(稔) 武井 田中 玉越
原田 藤田 三浦 八嶋 山本 吉田
ゲスト 谷口 野崎 矢野

まなぼーと成増サークル公開教室報告

副島 元子

まち博の活動は、「史跡めぐり」「郷土史勉強会の現地講義」を除くとまなぼーと成増に拠点を置いている。そして今年、久しぶりにまなぼーと成増主催で公開教室を開くことができた。テーマは『古文書―江戸「いたばし」の資料を読む―』とした。3回シリーズで①10月5日 ②10月26日 ③12月7日の土曜日とし、午後1時半の開始とする。板橋区広報に掲載のためそれ以上の情報は記載できなかった。

まち博事前打ち合わせで、今回は地域名主文書は取り上げず、地域の風土や暮らしぶりを捉えた紀行文から題材を選ぶことにした。中でも、江戸後期に煎茶道具一式を携えて友人を誘って江戸近郊の清水を訪ね回った十方庵敬順（津田大浄）の記録は板橋区域だけでも18回に及ぶ。生前の出版は叶わなかったが大正期に『江戸叢書』の一環として木版印刷の『遊歴雑記』が刊行された（全5巻⁹⁵話）。その他、村尾嘉陵著『江戸近郊の道しるべ』、古川古松軒著『四神地名録』、斎藤月岑著『赤塚の記行』など墨書本も挙げられる。加えて、毎年板橋文化財ふれあいウィークに探訪地点となつている朱印寺「松月院」は室町時代からの歴史を彷彿させ、近年の高島平団地の命名に採用されている高島秋帆の西洋火技演習とその後の事績を合わせて知ることができる寺院

で、目を見張るのは江戸時代を通して朱印状の全てが保管されていることである。これらを勘案し、最終的に

- ① 『遊歴雑記』から「日曜寺堆朱彫の愛染」
（講師 内田勝子・池田晃一）
- ② 松月院概要を読み取る『江戸名所図会』
（講師 松村祐安・田中 昇）
- ③ 松月院に残る古文書
（講師 栗原弘志・大谷克子）

に決定した。講師を担当した6人の準備体制は息が合っていた。打ち合わせを重ね、資料を厳選し、印刷の段階では笑顔が絶えなかった。

（以前の公開講座は未消化で、不安な気持ちがいっぱいで緊張していたことを思い出す）

受講生は思いの外少なかったがまち博に近々入会した会員の受講希望者が参加し、少人数でゆったりと開催することができた。1回を2部制とし、それぞれの史料を丁寧に説明して、質問も思わず出てくるような、和やかさだった。

日曜寺の「日曜」が今日の日曜日とは意味合いが違うことを改めて知った。胸にストンと落ちるように説明されて、まち博に入っただけよかったですと実感できる1日であった。

『お知らせ』（令和6年11月～7年1月）

- ◎ 会報発行（まち博114号）
- ・ 発行日 11月1日（金）

◎ 役員会

- ・ 日時 11月7日（木）午前9時半～
- ・ 場所 まなぼーと成増
- ・ 主な議題 サークル公開教室、郷土史勉強会^{10/13}、文化財ふれあいウィークの結果、まなぼーと成増改修工事の件、他

◎ 史料研究会

- ・ 日時 11月17日（日）午前9時半～
- ・ 場所 まなぼーと成増（18名参加）
- 『近世史料に見る今使われていない語彙と表記法の事例』 担当 江口清
- 『豊嶋郡徳丸が原の煎茶』 担当 副島元子

◎ 史跡めぐり

- ・ 日時 11月24日（日）午前9時半～
- ・ 行先 「小松屋横町（丁）道」と板橋宿の名所をめぐる（28名参加）
- ・ 集合 東上線大山駅南口改札前

◎ 役員会

- ・ 日時 12月7日（土）午前9時半～
- ・ 場所 まなぼーと成増
- ・ 主な議題 文化財ふれあいウィーク・史跡めぐり^{3/22}・サークル公開教室について、郷土史勉強会^{2/20}日程変更、他

◎ 史料研究会

- ・ 日時 12月15日（日）午前9時半～
- ・ 場所 まなぼーと成増（21名参加）
- 『近世史料に見る今使われていない語彙と表記法の事例』 担当 江口清

『豊嶋郡徳丸が原の煎茶』担当 副島元子

◎役員会

- ・日時 1月11日(土)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増
- ・主な議題 初詣・新年会次第、史料研^{1/19}・史跡めぐり^{3/22}について、他

◎初詣・新年会

- ・日時 1月16日(木)10時45分
- ・場所 初詣 徳丸北野神社(21名参加)
新年会 四葉集会所(20名参加)

◎史料研究会

- ・日時 1月19日(日)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増(20名参加)
- 『飯田侃家文書より』
- 「和宮下向といたばし」担当 江口 清
- 『諸國道中商人鑑 全』担当 副島元子

『行事予定表』(令和7年2月～4月)

(4月分は通常総会で確定します)

◎役員会

- ・日時 2月1日(土)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増
- ◎会報発行(まち博¹¹⁵号)
- ・発行日 2月1日(土)

◎史料研究会

- ・日時 2月16日(日)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増
- ◎郷土史勉強会(第3回・日程変更)

- ・日時 2月20日(木)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増

『考古学からみた文化財の修復について』

文化財係 小山 侑里子学芸員

『史跡と修復―「物理試験室」の来歴と

来るべき修復のために―』

文化財係 杉山 宗悦学芸員

◎役員会

- ・日時 3月1日(土)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増

◎史料研究会

- ・日時 3月16日(日)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増

◎史跡めぐり

- ・日時 3月22日(土)9時半
- ・行先 「常盤台住宅を巡る」
- ・集合 東武東上線ときわ台駅
北口ロータリー

◎役員会

- ・日時 4月3日(木)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増

◎史料研究会

- ・日時 4月13日(日)午前9時半
- ・場所 まなぼーと成増
- ◎令和7年度通常総会・懇親会
- ・日時 4月26日(土)11時
- ・場所 グリーンホール⁶⁰¹

【あとがき】

この会報に目を通す頃は立春の便りが届いていることと存じます。年が明けて早一カ月が過ぎましたが、江口会長のご挨拶にあるようにきな臭さを感じさせる一年になりそうです。ともあれ、徳丸北野神社で年の初めのお詣りを済ませ、新年会が賑々しくお開きになったことは報告の通りです。

このところ年々短くなる秋に催された行事が三つありました。文化財ふれあいウィークでは前代稀な忙しさとガイドの愉しさを大谷会員が見事に伝えていきます。

史跡めぐりは大山駅から中山道へ至る道すがら、板橋宿の名所の数々とその今昔を生き生きとしたタッチで佐藤会員が辿ってくれます。

サークル公開教室は受講者こそ少なかったものの、入会される方もあり、そこに至る経緯や三つのテーマを、副島副会長が優しい眼差しで伝えていきます。これからも見守ってくれることでしょう。

ぶらりまち博散歩は平澤会員が板橋を探索し、一等三角点と百段階段を紹介していただきました。郷土への愛情が行間からひしひしと漲ってきます。中でも「赤塚崖線」の名に込めた想いは直接聞いてみて下さい。卒寿を通り過ぎ白寿へと向かう氏の探訪譚がいつまでも続きますように。

(文責 松村祐安)